

平成 28 年度事業報告

概況

全国的には雇用情勢の改善により有効求人倍率は高い水準を示し、景気は緩やかな回復基調にあるといわれるものの、長期化する個人消費の低迷や企業収益の低下、日銀のマイナス金利政策等、経済の先行きは依然として不透明であり、不安要素は山積しています。

人口減少や高齢化が進む北浦地区において、昨年大河ドラマの放映や萩市内 5 資産の世界文化遺産登録は、地域経済の活性化を促し、センターにとっても就業の場の拡大につながるものとなりました。

また、昨年秋の労働者派遣法の改正は、派遣事業開始から 3 年を迎えた当センターにとっては、今後の就業の継続につながる朗報でした。

平成 27 年度の事業実績については、会員の高齢化や会員不足により地域別にみると前年度を下回る地域もありましたが、会員各位の熱心で誠実な仕事ぶりは発注者から大変好評で、リピーターも多く、全体の実績といたしましては、受注件数について、請負・委託等事業と派遣事業を合わせて 3,387 件となり対前年度比 857 万円の増額となりました。

契約金額の受注先別の内訳では、多前年度比で公共事業の受注が 13%(1,233 万円)の増、一般企業等からの受注が 5.8%(660 万円)減、個人・家庭からの受注が 6%(289 万円)増、独自事業については 32%(4 万円)の減となりました。

また、契約金額の職群別の事業実績では、請負・委任等事業については、管理群が最も多く全体の 42.1%を占め、次に一般作業群が 37%、以下、技能群が 15.6%、サービス郡が 3%、折衝外交群が 2.3%となり、派遣事業については、大別して自動車運転等に係る技術群が 71.6%、一般作業群等が 28.4%の割合となりました。会員については、入会希望者の意向とシルバー人材センターの仕組みにおける働き方との間のギャップもあり、年度末会員数は、対前年度比 15 人減の 481 人となり、就業実人員についても 11 人減員の 468 人となりましたが、就業率は 97.3%となり 0.7% 向上しました。

高齢化社会を迎えた今日、人口減少による労働力不足は大きな社会問題となっており、高齢者の労働力に寄せられる期待は日々高まりつつあります。これに並行して、地域寂寥におけるシルバー人材センターの存在・果たすべく役割もますます重要となっているところであり、当センターといたしましたは、この度の不祥事を踏まえ、今一度

公益社団法人の原点に立ち戻り、会員の皆様、市民及び事業発注者からの信頼と期待に応えられるセンターとなるよう、今後努めていきます。